

『連』運営ルール「Q&A」

Q1：班は自動的に「連」に移行するのですか？

A：いいえ。班の組合員同士でテーマを決めてサークルを申請することは可能です。

Q2：一度申請すれば自動継続ですか？

A：いいえ、毎年申請が必要です。

Q3：蓄冷材やドライアイスを購入した費用は請求できるのですか？

A：いいえ。テーマ・興味・関心によるつながりを作ることを支援する制度です。

Q4：連の会員が3人でも20人でも活動補費は同じですか？

A：人数にかかわらず年間1万円の提案です。

Q5：連の登録人数によって活動補助費の増額は検討しないのでしょうか。

A：活動補助費は活動に対して補填するものではなく人が集まるきっかけとして補助するものと考えました。そのため、人数によって金額が変動するのではなく一律配分としました。

Q6：支部活動への協力とはどういう内容ですか？

A：キャンペーンの周知、イベント参加、協力可能ならチラシまき、員外会員へのお誘いなど支部から連にお願いすることもあります。

Q7：連で大きなイベントを企画する場合、チラシ配布はできますか？

A：そのようなときは、支部へ提案してください。起案した連を中心に支部企画とすることも可能です。連による単独開催の場合も支部への配布提案が必要となります。ただし単独開催の場合のチラシに掛かる費用は連の費用負担となります（連活動補助費による支払いは可）。

Q8：申請用紙には、どのようなことを書くのですか？

A：会の名称・目的、代表者氏名・所属支部、全会員の氏名・所属支部、主な活動内容、主な活動場所などです。

Q9：連が支部に提案権を持つとはどういうことですか？

A：例えば、沃土会ファンサークルが沃土会の自主監査を支部として行うことや、子育てサークルが講演会を支部企画で行うことを提案するなど、連からの支部活動活性化提案を受け付けることで、担い手の豊富化やアイディアの多様化を目指します。

Q10：活動補助費の受け渡しはどうやって行うのですか？

A：定額1万円ではなく、領収書のある費用実費です。事後精算となるので連で立て替えてください。年度末に報告書と領収書の提出をもって精算します。精算方法は代表者の共同購入代金で集金相殺いたします。

Q11：エコロ制度やイベント保険は連の活動中に使うことはできますか。

A：連は組合員の自発的な自主活動と考えます。そのため、日常の活動時ではエコロ制度とイベント保険は適用外となります。ただし連が主体となった地区、支部主催のイベント、講演会、学習会では適用できます。（エコロひろばとの併用も禁止です。エコロひろば⇒全体補助部分との併用・重複が認められていません。また、ひろばは予約・登録なしで誰でもふらっと参加できる形態であり、サークル活動と位置づけていない等が理由です。）

Q12：地区と連の関係を教えてください。

A：地区は身近な地域内で行う活動のステージで住む場所によって自動的に所属地区が決まります。連はエリアを限定しない組合員が自主的に興味、関心によって集う活動。組合員は地区と連の活動ステージを2つ持つようになります。

Q13：連は生活クラブの市民事業寄付制度に応募することができますか？

A：はい、できます。連が行うイベントや特別な活動に支援（経済的・物質的）を要する時、また連の活動からワーカーズやNPOなどの市民事業を起業するときの支援などに活用できます。支部と連携して市民活動をするときなどにも、市民事業寄付制度の活用が考えられます。

● 「(仮称) 活動サークル」のイメージ 『組合員が元気になる＝生活クラブの活性化』

・ A：活動を促進する (仮称) 活動サークル

例) 生産者ファンクラブ/消費材ファンクラブ/OCR 記入クラブ/牛研究会 など

・・・生産者ファンクラブで生産者についての勉強会や支部と連動して生産者見学会の実施。利用結集活動を自主的に展開。複数の生産者ファンクラブや消費材ファンクラブが連携することで消費委員会のような活動の展開が可能。

・ B：人のつながりを作るゆるい (仮称) 活動サークル

例) 趣味/子育て/たすけあい/親子クッキング/ケーキ作り/食べ歩き/宴会クラブ

・・・子育てサークル。毎回ひまわりカフェ (HP) で呼びかけを行うので、さまざまな地域からの参加が可能。ブロックや支部を超えたつながりができ、サークル以外でも付き合いが始まる。新たな生活クラブの人材発掘の場に。また、員外の参加も可能なので、子育てサークルに参加している員外が消費材に共感を得て加入することも。

・ C：地域の課題を解決する (仮称) 活動サークル

例) 環境/平和/ゴミ/水源/放射能/農薬/原発/9条/六ヶ所/TPP/省エネ/エコライフ

・・・3R 推進クラブが地域のごみ問題についての学習会を開催。これまで支部が開催していたことが、(仮称) 活動サークルが開催することで活動の主体者が多様化し、様々な活動を同時に展開していくことが可能に。